

カイコの歴史・昔の人々の工夫

総合的な学習の時間に、講師の方をお招きして、蚕の歴史や養蚕業についてのお話をさせていただきました。

カイコの歴史は、5000年前の中国から始まったというお話から始まり、どのようにして今の養蚕業まで至っているのか、歴史を教えてくださいました。野生のクワコを育てることにした中国の人々が、よりよく養蚕したいという思いから、品種改良を重ねてきたと聞いて、その工夫や知恵に、子供たちは興味をもっていました。また、「大きい繭だからよい」という考えだけでなく、「小さい繭でも、昔ながらのカイコを育てることに意味がある」という考えもあり、今でも「小石丸」という種類のカイコが大切に育てられているというお話も聞かせていただきました。

カイコが一生のうちほとんど動かないけれど、繭を作るときには動くというお話は、子供たちが、自分たちでカイコを育てた経験と重ね合わせながら聞いていました。カイコの習性を利用して、「回転まぶし」という装置が、生み出されたということが分かりました。

後半には、講師の方とその日に収穫したばかりの落花生や胡麻を例に出しながら、「一粒万倍（いちりゅうまんばい）」という言葉を教えてくださいました。一粒の種が、万倍となって稲穂のように実るという意味です。それは、わずかなものが非常に大きく成長することのたとえであり、カイコがそれに当たることを教わりました。

カイコのお世話を経験した子供たちにとって、今日のお話は、カイコについての学びを深める貴重な時間となりました。

ご多用の中、子供たちのためにカイコと養蚕のお話をしてくださった講師の方、本当にありがとうございました！

